

城北信用金庫アスリート職員の強さの源に迫る

アスリッツ ゼロ

ATHLETES ZERO

2025

梶原有希

フリースタイルスキー・モーグル

自分らしい滑りで

「世界の壁を乗り越えて」

スープカレー



地元・札幌はスープカレーが有名なので、いろいろなお店巡りを計画中。『Rojiura Curry SAMURAI』は、ブロッコリーがサクサクでおすすめ！東京にもあるので行ってみてください😊

カメラ



アスリートの素顔をチラ見せ



遠征中のオフの日はカメラを持って散策します。オーストリアで撮ったこの1枚は、太陽の周りに丸い虹が出ていてとても幻想的でした😊

沖縄旅行



久しぶりに家族5人で沖縄旅行へ。小さい頃は毎年のように行っていたので懐かしかったです！

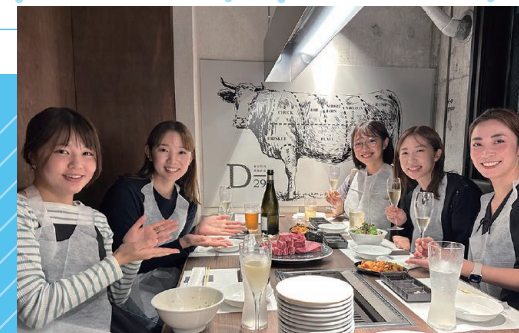
ライブ



マカロニえんぴつの北海道公演に行きました。去年は、北海道の大型ロックフェス『RISING SUN』にも2日間参加しました😊

梶原有希のオフ時間

Johoku Athletes Club



アスリートクラブの末っ子として、お姉さんたちになんか甘やかされてます(笑)後輩が入ってきたら自分がお姉さんになるように頑張るぞー！



JOHOKU
ATHLETES
CLUB

アスリートマネージャーより

いつも Johoku Athletes Club (JAC) を応援していただき、ありがとうございます。JACの公式サイトでは所属アスリートの情報を日々更新していますので、ぜひ一度ご覧ください☆

Instagram
@jac_manager

臨場感あふれる競技シーンやプライベートな一面などをInstagramで発信しています。



JAC HP
<https://www.johokuathletesclub.jp>

アスリートの大会告知や公式ブログ、インタビュー、メディア出演など多数の情報をホームページに掲載しています。



城北信用金庫

自分らしい滑りで

スピード、華麗さ、正確さ。
スキークのあらゆる要素が詰まっている競技・モーグルで、
日本代表として活躍を続ける梶原有希。
精神的にひと回り大きくなり、大舞台への出場を目指す。



Yuki Kajiwara

2002年、北海道生まれ。2024年4月入庫。2021年 第92回宮様スキー大会国際競技会モーグル1位／2022年 第42回全日本スキー選手権大会デュアルモーグル1位／2024年 FIS WC カザフスタン・アルマトイ大会デュアルモーグル8位



2020年全日本スキー選手権大会にて、側転するジャンプ技の『ループ』を決める。人一倍大きく、高く飛べる武器を生かし、2位を獲得した

2026年にイタリアのミラノで開催される4年に1度の冬のスポーツの祭典。梶原選手の大会にかける思いは日増しに強くなっている。

『出たい』という気持ちがとても強くなってきました。まずは今戦っているW杯で良い成績を出すこと。一つひとつこなし、手が届かないものではないと感じているので、ここからの一年が勝負だと思っています」

すでに代表の選考は始まっている。「まわりに流されず、ただ自分らし

さを出していけるかが大事。今はあまり意識せず、明確に見えてきたところで大舞台の目標を立てたいと思います」

初めてW杯に出場して もつと上の世界を目指したくなった

三姉妹の真ん中として札幌で生まれた梶原選手。7歳からスキー技術の正確さを競う基礎スキーを始めたが、3歳上の姉がやっていたモーグルがとても楽しそうに見えたという。

「遊び半分でジャンプをしてみたとき、

ふだんは味わえないような浮いている感覚がすごく気持ちよかったです」
姉の後を追うように10歳でモーグルに転向。すぐさま回転技をマスターしてモーグルの虜になった。

通常、モーグルはスピードを出すほどミスの増える選手が多いが、梶原選手はその逆だった。

「私の場合はスピードを出すことで滑りに勢いがついて、コブも速く降りることができました。エアも大きく飛べるようになって、どんどん試合に勝てるようになって

たい」と口にした。すでに引退していた姉は「ケガだけはしないで帰ってきて」と優しい声をかけてくれた。

「休んでいいの?」と思いました。でも、ホツとしたのも確かでした。こんなふうに言ってくれる人がいるんだな、って」

重圧に押しつぶされそうだったが、周囲の声に支えられて、4戦目からは徐々に自分の滑りを取り戻した。3月の第8戦では、デュアルモーグルで8位入賞の好成績を収めることができた。

城北信用金庫に入庫したのは2シーズン目のW杯を終えた2024年4月のこと。競技をしながら社会人生活を送ることができる会社を探して入庫を決めた。

「元アスリートの先輩とお話して、城北信用金庫の温かい雰囲気を感じました。結果を出すことについても『ブレッシャーに感じなくていい』と言ってくださって、安心しました。大前理事長とも面談でお話ししましたが、『合宿やトレーニングの日程を優先していいよ』と言っていただいて、すごくありがたい環境をいただき、本当に感謝しています」



自身初の優勝を果たした、2022年全日本スキー選手権大会。「大きい自信になりました」



22/23年W杯。海外戦初出場にもかかわらず7位に入賞（第3戦フランス・アルプデュエズ大会）

二度の7位入賞という好成績を収めた。エアの特技を磨き、自信を持って臨んだはずの23年／24年の2シーズン目は、始まった途端に追い込まれてしまう。

「調整が難しく、やりたいことがやれないまま試合の日になってしまうことが続いていた。自分の滑りができず、結果も出ない。本当に辛かったです。3戦目のフランス・アルプデュエズの2日目、初めて辞退してしまいました」

試合会場にいたのに、滑れなくなってしまう。日本代表のメンバーに選ばれたこと、城北信用金庫に入庫が内定し、企業の顔として良い結果を残したい気持ちもいつの間にか重圧になっていた。

「前日の練習も精神的にギリギリの状態でした。その日の夜のコーチとのミーティングで、自分でも理由が分からないまま涙が止まらなくなってしまいました」

コーチは、1試合休んで次の4戦目から復帰することを提案してくれた。日本にいる姉に国際電話をかけ、思わず「もう辞め



23/24年W杯、第8戦のカザフスタン・アルマトイ大会にて。第3戦の辞退から奮起し、見事8位入賞

一歩ずつ着実に進んだ先に 夢を見据える

「城北信用金庫に入って、学生るときよりスキーのことを考える時間が増えました」という梶原選手。2026年にはミラノでの4年に1度の大会が待っている。今回はデュアルモーグルが新種目として採用され、モーグル種目にますます注目が集まっている。

「ミラノへの出場をかけたW杯では6位以内に入るのが目標です。目の前のことを一つずつクリアした先に大きな舞台があると考えています」

周りの人に支えられてスランプを克服した梶原選手。今は自分らしく滑ることを大切にしながら、一歩ずつ進んでいる最中。その先に大舞台の頂点がある。



入庫後、アスリート職員として地域の行事にも参加